

生徒の学びを深める「英語コミュニケーションⅠ」の授業実践

ー授業公開とフィードバックを通じた授業改善ー

英語科 遊 馬 智 美

「生徒の学びを深めること」をテーマとして学会でビデオ公開・発表を行った「英語コミュニケーションⅠ」の授業について、実際に教室で授業を参観した大学教員からの助言を基に授業改善を行った。本稿では、教科書本文の内容理解における板書の在り方、グループでの相互発表活動の方法、「説得する」という機能を用いた言語活動の三点について、授業改善の過程と成果について報告する。

〈キーワード〉 英語コミュニケーションⅠ，教科書の内容理解，板書，相互発表活動，スピーチ，説得

1. はじめに

本実践は、「英語コミュニケーションⅠ」の授業において、題材に関する理解を深めるとともに、生徒自身が思考することで学びを深化させることを目的として実施したものである。3クラスの実践の中で、大学教員に授業を参観していただき、指導・助言を受ける機会を得た。その後、英語授業研究学会においてビデオによる授業公開を行い、さらに外部からの助言を受けた。本稿では、これらの助言を踏まえて行った授業改善の過程と成果について報告する。

2. 扱った単元について

2.1. 教科書・題材

CROWN English Communication I (三省堂) Lesson 6 You and Your Smartphone –Who's in Charge?

普及率や使用時間の増加からスマートフォンが現代生活に不可欠であることを示し、その利便性などのプラス面と、人々に大きな影響を及ぼすマイナス面の両方を扱っている。

2.2. 単元の目標

相手を説得するという目的をもってスマートフォン使用に関する自身の経験や意見を話したり書いたりして伝えるために、スマートフォンのプラスとマイナスの影響について読んだり聞いたりして概要や要点を把握することができる。授業では単元の最後の活動を、自治会総会で全校生徒に向けて授業中のスマートフォン使用の禁止を提案するスピーチを書くこととし、多くの生徒を説得するという目的に応じて教科書本文の概要や要点を捉えることを目標にした。

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月）第 2 章、第 8 節 外国語、第 2 款 各科目、第 1 「英語コミュニケーションⅠ」、1 目標、(2) 読むこと、の「イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。」と 2 内容、(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項、②言語の働きに関する事項、イ 言語の働きの例、「オ) 相手の行動を促す・質問する・依頼する・誘う・許可する・助言する・命令する・注意をひく・説得する など」を受けて設定した。

2.3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 関係副詞, S+V+O+C (C=原形不定詞／分詞) に関する事項や本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。 [技能] スマートフォンのプラスとマイナスの影響について読み取る・聞き取る技能を身につけている。スマートフォン使用に関する自身の経験や意見を, 相手を説得するための表現などを用いて, 話して・書いて伝える技能を身につけている。	スマートフォンのプラスとマイナスの影響についての理解を深めるために, スマートフォンをめぐる現状と懸念に関して読み取り・聞き取り, 概要や要点を把握している。 スマートフォンの使用に関する自身の経験や意見などについて, 基本的な語句や文, 相手を説得するための表現などを用いて, 考えを話して・書いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしている。	スマートフォンのプラスとマイナスの影響についての理解を深めるために, スマートフォンをめぐる現状と懸念に関して読み取り・聞き取り, 概要や要点を把握しようとしている。 スマートフォンの使用に関する自身の経験や意見などについて, 基本的な語句や文, 相手を説得するための表現などを用いて, 考えを話して・書いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしようとしている。

2.4. 単元の指導計画

第1時	<u>Lesson 全体の Introduction</u> Take a moment to think (p. 93), Smartphone habit checklist (p. 106) を使って自身のスマートフォン使用の経験や考えについて話し合う
第2時 授業参観	<u>Section 1</u> • Vocabulary • Reading Comprehension “a new culture”とは何かを culture という語の定義から考えていく スマートフォンを日常的に使う新しい文化への世間の変化を, 中学の時は自由に使えなかったスマートフォンが高校では授業中も含めて好きなように使えるようになった身近な変化と重ねて考える スマートフォンの所持率・利用頻度が上がっていることを最新データの情報とともに理解する • Explanation 関係副詞, 知覚動詞, “healthy”の使い方 • Reading Aloud • Homework Opinion Writing: Are you using your smartphone in a healthy way? Explain the items you checked “Yes” on the checklist (p. 106).
第3時 授業参観	<u>Section 1 Review</u> • True or False (Listening) • Summary (Fill-in-the-blank) • Speaking Activity 宿題で書いてきた内容をグループ内で発表し, スマートフォン使用の習慣の共通点・相違点を見つける <u>Section 2</u> • Vocabulary • Reading Comprehension スマートフォンを使って行っていること具体例を3つの観点から理解する 教科書に載っていないがよく使う機能の例についても英語で言えるようになる

第 4 時 授業参観	<u>Section 2</u> • Reading Comprehension 3 つ目の観点のまとめを英語で書く（日常生活で多くタスクをスマートフォンで行えるようになったことで私たちの生活はどう変わったか） • Explanation 使役動詞(make/ let)の使い分け，関係副詞 • Reading Aloud • Homework Opinion Writing: 1. What did you do with your smartphone throughout the day yesterday? 2. Choose one thing you did with your smartphone yesterday. Explain the good point and the bad point of doing it.
第 5 時	<u>Section 2 Review</u> • True or False (Listening) • Summary (Fill-in-the-blank) • Speaking Activity 宿題で書いてきた内容をグループ内で発表し，以下の課題に取り組む 1. Who is the heaviest smartphone user? 2. Imagine the parents of the heaviest user told her to limit her smartphone use to 15 minutes a day, but she wants to use it more. How would you persuade them? good/ bad points をまとめて発表用の視覚資料を作り，クラス全体への発表の準備をする
第 6 時 授業公開	<u>Section 2 Review</u> • Presentation グループごとにクラス全体に向けて発表する 1. The heaviest user がある 1 日のうちに自分がスマートフォンを使ってしたことについて発表 2. その生徒の両親がスマートフォン使用を制限していると仮定し，その他のメンバーが制限を解除するように両親を説得する（スマートフォンの長所・短所をまとめた視覚資料を見せながら） • Final Task（ゴール）の提示 <u>Section 3</u> • Vocabulary • Reading Comprehension スマートフォンの negative effects について考える 音が鳴らなくても存在が集中力に影響を与えることを示す実験について補足情報も含めて理解する • Homework 3 つの被験者グループの条件の違いを考え，この実験から言えることを英語で書く
第 7 時	<u>Section 2 Review</u> • Presentation グループごとにクラス全体に向けて発表する（前時と同様） <u>Section 3</u> • Reading Comprehension この実験から言えることを英語で書く • Explanation 使役動詞 • Reading Aloud
第 8 時	<u>Section 3 Review</u> • True or False (Listening) • Summary (Fill-in-the-blank) • Reading Activity 教科書で紹介されている実験について書かれた article を読み，質問に答える https://news.utexas.edu/2017/06/26/the-mere-presence-of-your-smartphone-reduces-brain-power/ Why do you think it's hard to focus when your smartphone is near you, even if you're not using it? 本文の内容理解を深めるために，実験結果を考察する

第 9 時	Section 4 • Vocabulary • Reading Comprehension mental laziness とは何か, スマートフォンに頼りすぎると mental にどのような影響があるかを考える “Moderation in all things”が言いたいことは何かを考える • Explanation 過去形の形で現在の推量を表す助動詞 • Reading Aloud
第 10 時	Section 4 Review • True or False (Listening) • Summary (Fill-in-the-blank) • Listening Activity 授業中のスマートフォン使用がテストの点数を下げるという実験のニュースを聞く Mobile phones in class lower test scores (12th June, 2015) https://breakingnewsenglish.com/1506/150612-mobile-phones.html
第 11 時	Final Task • Speech Writing これまで学習したことを振り返りながら各自で書く Write a speech for the Student Council Meeting that will convince all the Ochako students to agree with your idea: banning the use of smartphones during class.
第 12 時	Final Task • Role-play: Student Council Meeting – Proposal to Ban Smartphone Use During Class 用意された台本を使って 4 人グループでミニ自治会総会を開き, 順番に提案のスピーチをする スピーチの後には質疑応答をし, 最後に採決をする クラス全体に向かって各グループが発表する, 1 番説得力のあるスピーチを選んで投票する

3. 学会で公開した授業（第 6 時）

3.1. 本時の目標

相手を説得するためにスマートフォン使用に関する自身の経験や意見を話して伝えることができる。Final Task の目的に応じてのマイナスの影響について読んだり聞いたりして概要や要点を把握できる。

3.2. 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] S+V+O+C (C=原形不定詞／分詞) に関する事項や本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。 [技能] スマートフォンのマイナスの影響について読み取る・聞き取る技能を身につけている。スマートフォン使用に関する自身の経験や意見を, 相手を説得するための表現などを用いて, 話して伝える技能を身につけている。	スマートフォンのマイナスの影響についての理解を深めるために, スマートフォンが子どもや大人に与える影響や関連する実験に関して読み取り・聞き取り, 概要や要点を把握している。 スマートフォンの使用に関する自身の経験や意見などについて, 基本的な語句や文, 相手を説得するための表現などを用いて, 考えを話して伝えている。	スマートフォンのマイナスの影響についての理解を深めるために, スマートフォンが子どもや大人に与える影響や関連する実験に関して読み取り・聞き取り, 概要や要点を把握しようとしている。 スマートフォンの使用に関する自身の経験や意見などについて, 基本的な語句や文, 相手を説得するための表現などを用いて, 考えを話して伝えようとしている。

3.3. 本時の展開（第6時） Section 2 ～ Section 3

項目 (時間)	学習活動（指示・発問・説明）	活動のねらい・ 指導上の留意点等
Greeting and preparation (3 mins)	- 挨拶 - 前回のグループワーク（Section 2 活動）の内容確認 - Who is the heaviest smartphone user? - Imagine the parents of the heaviest user told her to limit her smartphone use to 15 minutes a day, but she wants to use it more. How would you persuade them? - 本時の活動の内容確認・指示	- 前回の授業の内容を思い出させて、本時の発表につなげる - 発表時には発表用の視覚資料に書いたことをただ読むのではなく、相手を説得するために必要な内容を付け加えて話すように指示する
Presentation (10 mins)	- グループごとにクラス全体に向けて発表（Section 2 活動） - The heaviest user がある 1 日のうちに自分がスマートフォンを使ってしたことについて発表 - その生徒の両親が使用を制限していると仮定し、その他のメンバーが制限を解除するように両親を説得する（スマートフォンの長所・短所をまとめた視覚資料を見せながら）	- 生徒が落ち着いて発表できるように励まし、進行を手助けする - しっかりと発表を聞くようなクラス全体の雰囲気を作る
Final task announcement (2 mins)	- Lesson 全体のまとめの活動について説明する - Write a speech for the Student Council Meeting that will convince all the Ochako students to agree with your idea: banning the use of smartphones during class	本時の活動では長所について考えたが、次は短所について考える必要があることを伝え、negative effects について書かれている Section 3 & 4 の目的に応じた読みにつなげる
Reflection (3 mins)	- Final task に向けて、今回の発表を振り返る - 相手を説得するときの工夫やアイデアを共有する	他のグループの発表から学んだことを、次の自分の活動に生かせるようにする
Vocabulary (3 mins)	- Section 3 の new words を指導用音声のあとに続いてリピート - 間違いやすい発音（<u>effect</u>, <u>mode</u>, <u>focus</u>）やアクセントの位置（<u>distráct</u>）について説明する - ペアで発音の練習をする	生徒の発音をよく聞き、適宜フィードバックを与える
Reading comprehension (10 mins)	- 生徒に質問をしながら本文の内容について説明する - 本文の内容を板書にまとめ、生徒はノートに書き写す - Section 3 <u>Negative effects of smartphones</u> - Negative effects on children について考える Q What do you think about the children who are using smartphones in the photos (p. 99)? ペアで話し合ったあとに、数名の生徒に全体で発表させる Q What does “mental development” mean? Q What do we use to think and understand? – A. Mind.	- 英語による説明の補助になるように本文のポイントを板書にまとめる - 子どもに与える悪影響について生徒の考えを聞く - Section 4 の mental laziness の意味が理解できるように、“mental”と“mind”について取り上げる

	— Negative effects on teenagers and adults について考える Q What does the word “distract” mean? Q If your smartphone doesn’t make sounds, does it still distract you?	・次に出てくる実験の内容につながるポイントについて考えさせる
Textbook audio listening (3 mins)	・本文で紹介されている実験の概要を説明する ・本文の音声聞き、板書の空所に入る詳細情報を聞き取る <u>Experiment</u> Participants were asked to solve math problems to turn their smartphones to _____ to place their phones (1) in _____ (2) in _____ (3) on _____	・前半部分は先に説明したので、内容確認のために聞かせる ・後半部分は必要な情報を探すために聞かせる ・生徒が予習してきていても考えながらも 1 度本文を聞くように、本文では使われていない語句が空所に入るようにする
Reading comprehension (10 mins)	・空所に入る語句をペアで確認した後、全体で確認 ・教科書には載っていない情報 (silent mode, on the desk face down, in their bag) も追加して実験の説明をする Q Which group did the best/ worst? Q Why did Group 1 do better than Groups 2 and 3? What is the difference between Group 1 and Groups 2 and 3? ペアで話し合ったあとに、数名の生徒に全体で発表させる	・情報を補足して、生徒がより正確に実験内容を理解して、結果の意味を考えられるようにする
Summary (1 min)	・宿題と次回の授業のアナウンスをする Q Based on this experiment, what can we say about smartphones and concentration? 板書の実験のまとめ部分となるように、生徒が 1 行程度で内容をまとめる	・本文には「集中力に影響を与える」としか書かれていないが、具体的に何がどのように影響するかを読み取らせる

4. 思考を深める板書の改善

「英語コミュニケーション I」の授業では、教科書本文の内容をセクションごとに板書にまとめ、生徒はそれをノートに書き写している。板書では、本文とは異なる英語表現を用いたり、語句の意味を補足したり、本文にはない情報を付け加えたりしながら、口頭による英語での内容説明の補助となるように要点を整理している。

従来は、これらの内容を教師がすべて板書として提示していた。これに対して、教師がすべてをまとめて提示するのではなく、生徒が本文から重要なポイントを読み取り、自らまとめて書くことができるようにするとよいという助言を大学教員から受けた。そこで、残りの Section 2, 3, 4 では、板書の一部を空欄にし、生徒自身に考えて書かせる形に変更した。

4.1. Section 2 の板書

Section 2 の本文には、スマートフォンを使って私たちが行っていること具体例が書かれている。これらの具体例を三つのカテゴリーに分け、教師が板書にまとめた（資料1）。さらに、⇒を用いて、スマートフォンによって生活にどのような変化が起きたかを整理した。

一つ目のカテゴリーである人間関係については、スマートフォンによって常に人と連絡が取れるようになったこと、二つ目の娯楽については、生活がより豊かに楽しいものになったことが本文に書かれている。一方、三つ目の実用的なサービスについては、それによって生活にどのような変化が起きたかは本文には明示されていない。そこで、この部分を生徒に自分で考えて書かせることにした。

まず各自で考えてノートに書かせ、その後4人グループで共有し、グループで良いと思うものを一つ選び、黒板に書かせてクラス全体で共有した（資料2）。生徒は **convenient, efficient, easy** などの形容詞を用いて表現しており、本文の内容を踏まえてまとめることができていた。このように、生徒自身に考えさせる活動を取り入れることで、板書を写すだけの場合よりも一段階深い思考につながった。

資料1

Section 2 の板書計画

Section 2

Living all day through our smartphones

<the way we relate to people>

- texting
- emailing
- social media
- video chatting

} ⇒ keeping constant contact with people

<the way we amuse ourselves>

- watching movies / videos
- listening to music
- playing video games

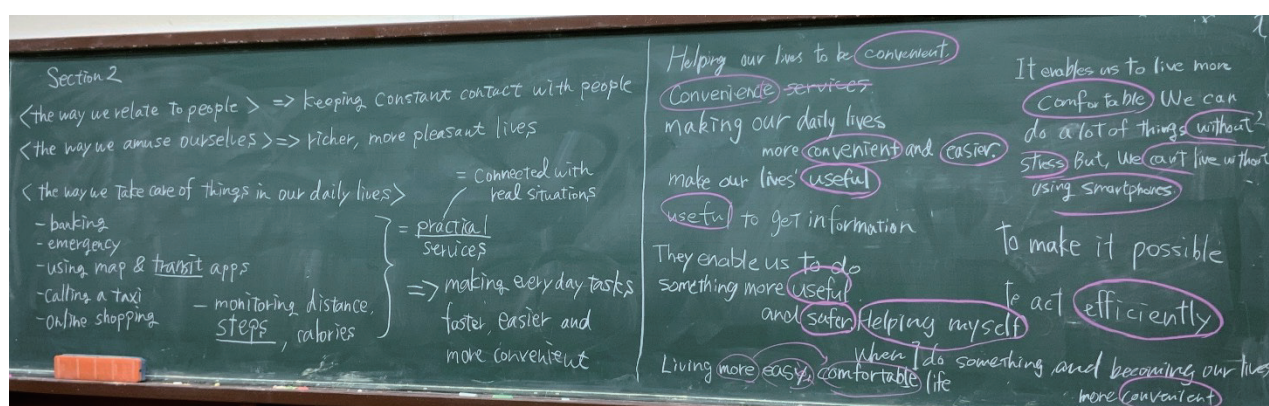
} ⇒ richer, more pleasant lives
= enjoyable or attractive and making you feel happy

<the way we take care of things in our daily lives>

- banking
- emergency
- using map & transit apps
- calling a taxi
- online shopping
- monitoring distance, steps, calories

} = practical services
connected with real situation

⇒ この部分を生徒に考えさせた



資料2 左側：教師による Section 2 の板書 右側：生徒が考えて書いたまとめ（11 グループ分）

4.2. Section 3 の板書

Section 3 では、スマートフォンと集中力に関する実験について扱われている。被験者は三つのグループに分けられ、それぞれスマートフォンを異なる場所（机の上、ポケットやバッグの中、別の部屋）に置いた状態で数学の問題を解き、その結果が比較されている。別の部屋に置いたグループの成績が最も高く、本文では「スマートフォンが集中力に影響を与えた」ことが示されているにとどまっている。

まず、これらの実験内容について補足情報も含めて板書に整理した（資料3）。その上で、さらに思考を深めることを目的として、三つの被験者グループの条件の違いを踏まえ、この実験から「スマートフォンと集中力」についてどのようなことが言えるかを考えさせた（Based on this experiment, what can we say about smartphones and concentration?）。その後、Section 2 と同様にグループで共有し、クラス全体で発表させた（資料4）。

生徒は、音が鳴っていないなくても「視界に入ること」や「手が届く距離にあること」が集中力の低下につながることに着目し、out of sight や distance, nearby, far, away などの距離を表す語句を用いて表現していた。このことから、実験結果を踏まえて、教科書本文の記述を超えて考察する活動となり、生徒の思考を深めることにつながった。

資料 3

Section 3 の板書計画

Section 3

Negative effects of smartphones

= thinking, understanding, and emotions of mind

- children: negatively affect their mental and physical development
- teenagers & adults: distract them with ringing and buzzing

= take someone's attention away from what they are doing

Experiment

participants were asked

- to solve math problems
- to turn their phones to silent
- to place their phones

(best) (1) in another room
(2) in their pocket or bag
(worst) (3) on the desk face down

⇒ Having a smartphone within sight or within easy reach reduces a person's ability to focus

この部分を生徒に考えさせた

Experiment

- math problems
- silent

(best) (1) in another room
(2) in their pocket or bag
(worst) (3) on the desk face down

⇒ Having a smartphone within sight or within easy reach reduces a person's ability to focus.

Q What can we say about smartphones and concentration?

We shouldn't study near our smartphones because it's better for them to be further away from their bodies.

To keep away from the smartphone is important.

The situation that their smartphone (near) them is bad.

It's bad that the smartphone is nearby.

Our concentration depends on how far our smartphone are from us.

We should keep our smartphones away while studying.

keeping distance from phone is important to study

Smartphones distract our concentration. So, it is important to keep your smartphone out of sight

It's better that smartphone is out of their sight to concentrate on studying.

Smartphones deprive our concentration to study.

The distance between us and our smartphone effects our grade.

資料 4 左側：教師による Section 3 の板書 右側：生徒が考えて書いたまとめ（11 グループ分）

さらに、なぜ音が出ていなくてもスマートフォンが近くにあったり見えたりすると集中力が下がるのかについても生徒に考えさせた。生徒からは、メッセージが来ているかが気になって見てしまうから、などの意見が出たが、脳の機能について言及する意見はなかった。そこで、この研究を行ったテキサス大学が公開している当該実験に関する記事を宿題として読ませ、授業で脳の **cognitive capacity** について説明を行った。この脳の働きを踏まえた上で、自分のことと関連させるために次の問いについて考えさせた。

Where do you usually put your smartphone when you study?

What would you do to improve your concentration based on this experiment?

これらの板書を活用した活動は、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月）における「英語コミュニケーション I」の「読むこと」の領域、特に「説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動」に対応している。本実践においては、板書を手がかりに読み取った内容を整理させることで、これらの言語活動を具体化した。このように、本文の内容を読み取るだけでなく、情報を整理し、その意味を考察し、さらに自分の生活と関連付けて考える活動を取り入れることで、題材に対する理解を深めるとともに、生徒の思考を深める学習につながったと考えられる。

5. 生徒が書いた内容を共有するグループでの相互発表活動の改善

5.1. Section 1 の活動

Section 1 のまとめの活動（第 2 時）として、“Are you using your smartphone in a healthy way? Explain the items you checked “Yes” on the checklist.”という課題を生徒に与え、教科書 106 ページの **Smartphone habit checklist** を参照しながら、自身のスマートフォン使用について振り返り、健全かどうかについて考えたことを宿題としてワークシートに記述させた（資料 5）。次の授業では、その内容を 4 人グループの中で発表し、共有させた。

初回の実践では、書いてきた内容を互いに発表して共有するよう指示した。生徒は互いの発表を興味深く聞いている様子が見られたが、この活動には発表すること、および発表を聞くことの明確な目的が設定されていない点が大学教員から指摘された。そこで、次のクラスの実践では、互いの発表を聞きながらグループ内で **similarities** と **differences** を見つけるよう指示し、内容の共通点や相違点に着目させる活動へと変更した。気づいた点は紙に書き出させ（資料 6）、その後クラス全体で共有・発表させた。その結果、活動の目的が明確になり、生徒が発表を聞きながらメモを取る様子が見られるなど、聞き方に変化が見られた。また、自分と他者の考えを比較することを通して、理解を深めることにつながったと考えられる。

さらに、別のクラスの実践では、グループでの口頭発表は行わず、ワークシートをランダムに交換し、他の生徒の記述を読んで英語でコメントを付す活動を行った。コメントについては、それぞれの生徒のスマートフォン使用の実態に即した具体的なアドバイスを書くよう指示した（資料 5）。この活動では、アドバイスを行うという目的をもって他者の記述を読むことになり、相手の状況を踏まえて適切な内容を英語で表現することが求められるため、より思考を伴う学習となった。

Lesson 6 Section 1 Review

True or False

- F** **X** More than five billion people all over the world have smartphones.
T **Q** By 2018 more than 60 percent of Japanese people were using smartphones.
F **g** Japanese teenagers spend 250 minutes a day using smartphones just for the Internet.

Summary

Smartphones are changing our lives, and it's important to think carefully (whether) we are using them in a (healthy) way. (Everywhere) we look, people are (bending) over their phones, which has become very (common). In Japan, many teenagers spend a lot of time (online) every day. This indicates a new culture (where) the digital world meets the real world.



Your Reaction p. 106 List 1. Your smartphone habits

Are you using your smartphone in a healthy way?
 Explain the items you checked "Yes" on the checklist.

I always check my smartphone first thing in the morning.

I always set my smartphone as alarm clock. So I can get up early because of it. However, I can't have time to eat breakfast in the morning.

because I spend a lot of time to check my smartphone.

I think I can say it's healthy and not healthy.

Also, I always use my smartphone whenever I have a little free time.

In Anytime, I want to check my smartphone. I know I'm a smartphone's addict.

It's not healthy. I had better stop using smartphone...

他の生徒からのアドバイス↓

How about buying alarm clock? It is very convenience and, it wake us up too. I think it wakes us not to bring our smartphone to the bed room.

I need alarm clocks...

資料5 生徒が書いた Section 1 ワークシートの課題

資料6

生徒が Section 1 の発表のために
 作った視覚資料

Similarities

- using smartphone when we study
 - └ listening to music
 - └ research something
- using it when we're free times,
 - └ play game
 - └ watch Youtube

Differences

- using it when we eat
- some feel happy when they use smartphone
 but ^{the} others feel sad when they use smartphone

5.2 Section 2 の活動

Section 2 のまとめの活動（第 4 時）として、次のような writing 課題を与え、生徒が前日にスマートフォンを用いておこなったことをすべて書き出させ、その中の一つについて良い点と悪い点を考えさせた。

1. What did you do with your smartphone throughout the day yesterday?
2. Choose one thing you did with your smartphone yesterday. Explain the good point and the bad point of doing it.

さらに、Section 1 における助言を踏まえ、生徒同士がグループで内容を共有する際には、活動の目的を明確にするために、以下の指示を与えた。

1. Who is the heaviest smartphone user?
2. Imagine the parents of the heaviest user told her to limit her smartphone use to 15 minutes a day, but she wants to use it more. How would you persuade them?

まず、生徒はそれぞれが 1 日を通してスマートフォンで行ったことを互いに聞き合い、グループ内で最も使用時間の長い生徒（heaviest user）を特定した。その後、その生徒が両親にスマートフォンの使用を制限されているという状況を設定し、各自が書いてきた良い点・悪い点を共有しながら、スマートフォンが自由に使えるように両親を説得する方法について考えさせた。

クラス全体で共有する際には、まず heaviest user の生徒が自身のスマートフォンの使用状況を発表し、その後、グループの他の生徒が、短所にも言及しながら長所を提示し、両親を説得する発表を行った。発表に際しては、紙による視覚資料を用いた（資料 7）。

活動の中では、3 時間もアニメを見ていたなどのスマートフォンの使用時間や内容に対して他の生徒が関心を示し、発表を積極的に聞く様子が見られた。また、“Please, Mom!” などの表現を用いて場面を想定した演技を行うなど、工夫して発表する姿も見られた。

このように、具体的な状況設定のもとで説得するという目的をもたせることで、生徒は自らの考えを整理し、相手の立場を意識しながら英語で表現することが求められ、より思考を伴う言語活動につながったと考えられる。特に、良い点と悪い点の両面を踏まえて主張を構成することで、単なる意見表明にとどまらず、理由や根拠を伴った説得的な表現へと発展させることができた。



資料 7 生徒が Section 2 の発表のために作った視覚資料（1 グループ分）

Lesson 6 Section 2 Review

True or False

1. With smartphones we do many things differently. **T**
2. We cannot do our banking business with smartphones. **F**
3. Smartphones can tell how far you walked during the day. **T**



Summary

Smartphones have changed our lives in three main ways — how we (communicate), how we (amuse) ourselves, and how we manage (daily) tasks.

They (let) us stay in touch with friends and family through (texting), social media, and video calls. They (make) us spend a lot of time watching movies, listening to music, and playing games anytime we want. They also (let) us do banking, find (directions), and check prices easily with various apps.

In short, smartphones have made our lives more connected, (pleasant), and (convenience).

Your Reaction

1. What did you do with your smartphone throughout the day yesterday?

e.g.) In the morning, I used my smartphone to check the weather and listen to music on my way to school.

Yesterday, I used my smartphone mainly for studying and entertainment.

In the morning, I checked the news. I was surprised to know that the Dodgers made it to the World Series for the second year in a row. During the day, I used my smartphone to search information for my homework and to listen to music. I really enjoy Taylor Swift's songs, especially "Love Story", which is my favorite. In the evening, I used my smartphone to watch short videos called reels on Instagram and also chatted with my friends for a while.

2. Choose one thing you did with your smartphone yesterday. Explain the good point and the bad point of doing it.

e.g.) Watching videos in the evening

Good: Watching videos helped me relax after a long day at school, and I could learn new things from educational videos.

Bad: I spent too much time watching videos and went to bed late, so I felt tired the next morning.

Listening to music during the day

Good: Listening to music can improve focus and motivation. It can also reduce stress and it gives me more energy.

Bad: Music with lyrics can sometimes be distracting make it hard to concentrate. Also, listening to music at high volumes for a long time is bad for my ears.

この発表部分に関しては、授業参観および前述の学会においてビデオを公開し、「親」の役となる人物を設定の方がよいという助言をいただいた。教員が「親」役となり、生徒の発表に対して反論したり質問したりする形でやり取りを行うとよいのではないかと、いうものであった。本実践では、生徒が両親に向けて説明をするところで活動が終わってしまっていたため、その説明に納得したかどうかを教師が「親」の立場で判断したり、発表を聞いている他の生徒に判断させたりする方法も考えられるとの助言もいただいた。

このような形にすることで、準備した原稿を読むだけでなく、即興でやり取りを行う場面を設定することができる。また、実際に目の前に話す相手が存在することで、話し方や使用する英語表現も変化するというご指摘もいただいた。さらに、生徒が考えたスマートフォン使用の良い点について、それぞれの意見の説得力の度合いを比較させる活動も可能であるとの助言をいただいた。単に意見を並べて発表するだけでなく、どの意見がより説得力をもつかを考え、選択して用いることで、より深い思考につながると考えられる。

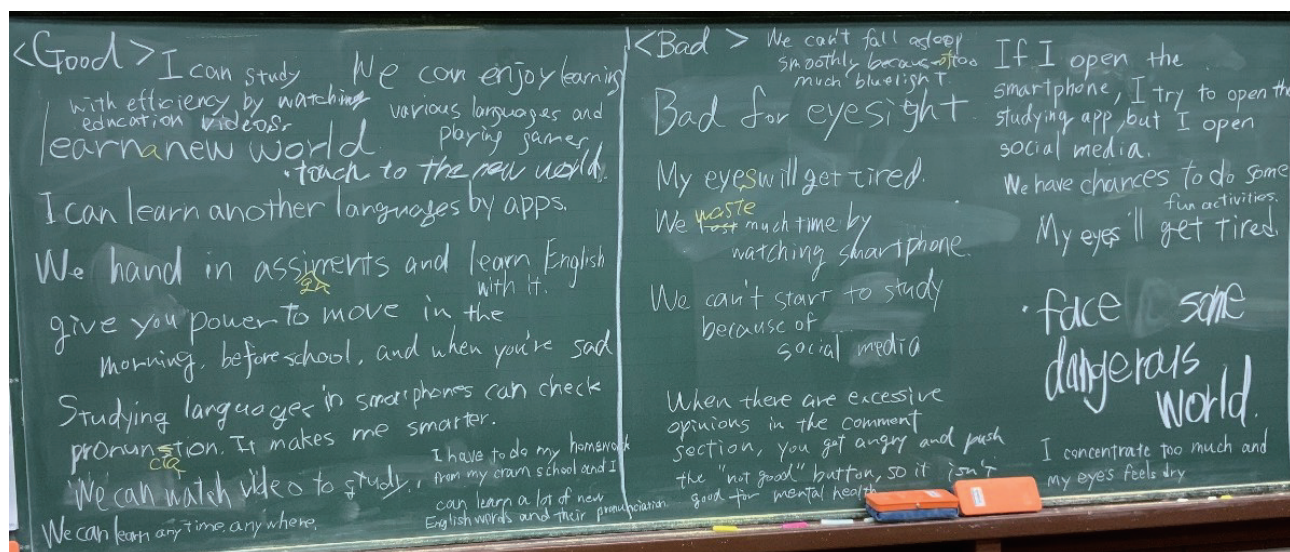
これらの助言を受け、別のクラスでは完全なロールプレイの形で説得活動を行った。まず、説得に最も有効に使えると思う good point と bad point をそれぞれ一つずつグループで選び、黒板に書かせ、ロールプレイの際に使えるようクラス全体で共有した(資料9)。その上で、導入として次のような会話の冒頭部分を提示し、悪い点を認めた上で良い点を伝えるという説得の流れを示した。その後、二人一組で母と娘のロールプレイを行った。

Mother: You're spending too much time on your smartphone these days.

Daughter: I know, Mom. I understand there are some bad points, for example _____ but...

黒板に書かれた様々な例を参考にできたことや、宿題で考えてきた内容が準備となっていたこともあり、どのペアも想定以上に活発に会話を続けていた。最後に、二組にクラスの前でロールプレイを披露させた。母親役の生徒は娘の意見に対して反論を行い、やり取りを続けていたが、最終的には娘が説得に成功し、“Mom, thank you for understanding me.”などの発話で会話を終える場面も見られた。授業終了のチャイムが鳴った後も会話を続ける様子が見られ、聞いている生徒も次に何を言うのか期待しながら聞いている様子であった。

このように、説得する相手や目的、活動の結末を明確に設定することで、生徒は状況に応じて発話内容を考えながらやり取りを行うようになり、即興的な発話や相手を意識した表現が見られるようになった。また、生徒は活動の達成感を得ることができ、意欲的に活動に取り組んでいた。



資料9 生徒が書いた説得力の度合いが高いと思う good point と bad point (11グループ分)

6. 「説得する」という言語の働きの指導に関する改善

6.1. Final Task

この単元の最終ゴールとして、次の課題を設定した。

Write a speech for the Student Council Meeting that will convince all the Ochako students to agree with your idea: banning the use of smartphones during class.

本校では生徒は校内でスマートフォンを自由に使うことができるが、「授業中」のスマートフォン使用の禁止を自治会総会で提案することを想定し、全校生徒を納得させるスピーチを書くことを目的とした。教科書本文の前半ではスマートフォンの長所が主に扱われ、後半では悪影響が主に扱われているため、後半部分を授業で読む前にこの課題を生徒に提示し、説得に必要な **negative effects** に関する情報を読み取りながら、本文の内容を理解するように促した。

生徒は、教科書で読んだ内容に加え、補足として読んだ実験に関する記事やスマートフォンに関するニュース、授業内での生徒同士の話し合いや発表で扱った内容などを基に、150～200語でスピーチ原稿を書いた。また、Section 2 で行った両親を説得する活動を振り返らせ、相手を説得するときの工夫やアイディアを生かすよう促した。さらに、原稿とともに、「全校生徒を説得するために工夫したこと」についても記述させた。

完成したスピーチ原稿を基に、4人グループで互いに発表をした。台本を用いてグループごとにミニ自治会総会を開き、司会者・提案者・質問者の役割を交代しながら順番にスピーチを行った。スピーチの後には質疑応答の時間を設け、生徒同士で即興のやりとりも行った。生徒にとって関心の高い話題であり、それぞれが自分の意見を持って活動に臨んでいたため、質疑応答では1回の質問と回答だけで終わるのではなく、さらに反論したり、別の生徒が異なる観点から質問をしたりするなど、活発なやりとりが見られた。

質疑応答に続いて採決を行い、提案に賛成か反対かをグループで判断させた。反対多数で提案が否決されたグループも多く、生徒は自分が納得できたかどうかを考えながら判断していた。これにより、自分のスピーチが相手を説得できたかどうかを知る機会にもなった。最後に、各グループの代表がクラス全体に向けてスピーチを行い、生徒は最も説得力のあるスピーチを選んで投票を行った。

評価については、口頭発表そのものは対象とせず、ライティング課題として作成したスピーチ原稿を、ルーブリックを用いて「内容」「構成」「言語」「説得の工夫」の4つの観点から評価した（資料10）

6.2. 「説得する」という言語の働きの指導

本授業を公開した際に、説得のレトリックについてどのような指導をしたかという質問があった。「説得する」という働きを用いて言語活動を行わせてはいるが、説得の仕方については特に明示的な指導は行わず、すでに生徒が日本語で行っている方法を応用することを期待していた。本実践で扱う「説得する」とは、自分の意見や考えを理由や具体例とともに述べ、相手に理解や同意を求め、相手の考えや行動に影響を与えることを目的としている。

また、両親の説得の活動で一部示したような、「初めに譲歩をしてから主張をする」といった典型的なパターンに生徒が一様に依拠することを避け、それぞれが目的に応じて工夫し、多様な方法で説得を試みることを重視した。さらに、スピーチ原稿作成のワークシートには「全校生徒を説得するために工夫したこと」を記述する欄を設け、生徒自身が自らの工夫を言語化する機会とした。

その結果、生徒は以下のように、聞き手の特徴や感情を踏まえた多様な工夫を挙げていた。

- ・成績が上がるだろうという内容を繰り返し伝えた
- ・根拠となるデータを示す
- ・スマホを手放したくない生徒の気持ちに寄り添った

- ・キーワードや問いかけを繰り返し行った
- ・お茶高生はみんな心優しい人たちなので、授業中にスマホを使うことの悪い点の1つに「人に迷惑をかける」という点を入れて説得力を高めた
- ・現状→悪いところ→提案→良いところ→誘い の順番にして流れをまとめた
- ・We を多く使い、仲間感を出した
- ・長期的なこと（目が悪くなる）や抽象的（そっちの方が素敵）ではなく短期的な利益に着目した
- ・共感を得るために自分の経験を話した
- ・明るい未来を想像させる
- ・禁止は授業中だけだということを強調して、「反発」を和らげた

これらの記述から、生徒が場面や目的に応じて説得の方法を主体的に選択・工夫している様子がうかがえた。説得の言語活動後には、生徒同士で方法について振り返りや共有を行う時間を設けたものの、教師が有効な例を取り上げて全体で共有したり、観点を整理したりすることは行わなかった。この点について、大学の教員からは、生徒の活動の中で有効であった説得の方法を取り上げ、クラス全体で共有することの必要性が指摘された。生徒の実践を基に説得の観点（例：根拠の提示、共感の喚起、構成の工夫など）を整理し、全体で言語化することで、他の単元や場面への転移を促すことができたと考えられる。以上のことから、今後は生徒の多様な表現を尊重しつつも、有効な説得の方法を教師が適切に取り上げ、全体で共有・整理する段階を設けることが必要であると考えられる。

Criterion	A	B	C
① Content (Clarity and persuasiveness of ideas)	The opinion is clear and strongly supported with convincing reasons and examples. Logical development and some reference to the opposite view are included.	The opinion and reasons are understandable, but lack some depth or clear support.	The opinion is unclear or lacks enough reasons; the writing is not persuasive.
② Organization (Structure and flow)	The writing has a clear structure with an effective introduction, body, and conclusion. Ideas are well connected and easy to follow.	The structure is generally clear, but transitions or logical flow are sometimes weak.	The structure is unclear or ideas are disorganized, making it hard to follow.
③ Language Use (Grammar and vocabulary)	Grammar and vocabulary are accurate and varied. Complex sentences and connectors are used effectively.	Some grammatical or lexical errors appear, but the meaning is mostly clear. Limited variety of expressions.	Frequent errors make parts of the writing hard to understand. Simple or repetitive sentence patterns.
④ Persuasive Voice (Engagement and tone)	The writing directly appeals to the audience with strong and engaging expressions. The tone is confident and persuasive.	The writer tries to persuade but lacks emphasis or engaging expressions.	The writing sounds mostly explanatory and shows little attempt to persuade.

 Chairperson (司会者)

Good afternoon, everyone. We will now start the Student Council Meeting.
Today's main topic is "Banning smartphone use during class."
The proposal will be presented by [Proposer's Name]. Please listen carefully.
Now it's your turn, [Proposer's Name]. Please begin.

 Proposer (提案者)

Thank you, Ms. [Chairperson's Name].

 Chairperson

Thank you, [Proposer's Name]. Now, we will move on to the question time.
If anyone has a question, please raise your hand.

 Questioner (質問者)

Excuse me. I have a question.

 Proposer

Thank you for your question.
(eg. In that case, the student should ask the teacher for permission before using it.
Emergencies are special cases, so we can make an exception.)

 Chairperson

Thank you. Any other questions?
(Pause briefly) If there are no more questions, we will now vote on the proposal.
Those who agree with the proposal, please raise your hand. Those who disagree, please raise your hand.
Thank you. Please put your hands down.

Case 1: Majority Agree (多数が賛成の場合)

 Chairperson (Result)

The majority agree with the proposal.
The motion to ban smartphone use during class has passed.

Case 2: Majority Disagree (多数が反対の場合)

 Chairperson (Result)

The majority disagree with the proposal.
The motion to ban smartphone use during class has not passed.
Thank you, [Proposer's Name], for your effort and clear explanation.
We appreciate your ideas. This concludes today's meeting. Thank you, everyone.

Lesson 6 Final Task

Imagine you are giving a speech at the Student Council Meeting.
You want to ban the use of smartphones during class.



Write a speech that will convince all the Ochako students to agree with your idea (150-200 words).

Today, I would like to talk about our use of smart phone during the class. As you know, our high school allows us to use our smartphone all the time not only in the break time but also in the class. It is very useful because we can search in the Internet and text to our friends. However, there are so much informations which we don't need in the class that we can't concentrate on study. There are also many researches on the use of smart phone which suggest that we are always thinking about the Internet or SNS even the phone is powered off. It causes the failings of our scores. School is a place to study, so we should not be controlled by our smartphones. Now, it is impossible for us to live without our smartphones. But we must understand both the good points and bad points. And it is the best time to study in the school. We should not waste this best opportunity. Let's ban the use of smartphones during the class.

(184) words

全校生徒を説得するために工夫したこと

スマホがどれほど私たちに影響を与えるかを明らかにし、学校の本来の目的も伝えて生徒に納得してもらった。

6.3. 別の単元での指導の改善

後に、Lesson 9 Our Lost Friend で美術品の返還問題を扱った際には、返還の是非についてのディベートを行った。ディベートにおいても、自分の主張に関して相手を説得する必要があるため、ここでも「説得する」という言語の働きを扱うことになった。

この単元では、ディベートを実際に行った後、個人の振り返りに加えて、クラス全体での振り返りの時間を設けた。また、反論の仕方については、主張の例を示し、それに対してどのように反論するかを練習させた（資料13）。まず、教師が一つ目の例について反論の手本を示し、その際に *I understand your point, but* ～ などの表現も紹介した。その後、二つ目、三つ目の例については、生徒が実際にこれらの表現を用いて反論の練習を行った。

時間の都合上、ペアでの練習までしか行うことができなかったが、どのような反論をしたのかをクラス全体で共有し、それに対して教師がさらに反論したり、良かった点を指摘したりする活動を行うことも必要であったと考えられる。

Rebuttal Practice（反論の練習）

1. Artifacts belong to the world, not to one country.

☞ I understand your point, but artifacts are part of a country's history and identity.

2. Returning artifacts is too expensive and difficult.

☞ That may be true, however fairness is more important than cost.

3. The past is the past, so we should not return artifacts.

☞ I understand your point, but we can still learn from the past and make better choices.

資料13 ディベートの振り返りの際に授業で投影した資料

7. おわりに

今回、授業を見ていただき多くのご指摘をいただいたことで、自分では気づくことのできなかった課題や改善点を明らかにすることができた。これまで作り上げてきた自分のスタイルで授業を行っていると、無意識のうちに授業の形が固定化してしまい、即時的な英語でのやり取りなど、教師・生徒ともにより応用的な英語力を必要とする活動に十分挑戦してこなかったことに気づかされた。今後も、生徒の力をさらに伸ばし、学びを深めることができるよう、授業の改善と新たな実践への挑戦を続けていきたい。

本実践に際し、ご指導・ご助言を賜りました東京外国語大学名誉教授 根岸雅史先生、群馬大学 津久井貴之先生に深く感謝申し上げます。なお、本稿は、英語授業研究会関東支部第31回秋季研究大会（2025年11月30日）におけるビデオによる授業公開および口頭発表の内容・資料に加筆・修正を加えたものである。